

校長室だより

12月号

杉並区立向陽中学校

平成30年12月25日発行

校長 菅野武彦

「人間賛歌が響き渡る学校づくり」を目指して

【今年度のキーワード】

「チーム向陽 ～みんなの向陽中学校～」

◇ 「平成30年度 学校経営計画・重点目標と方策」等の自己評価の集計結果をお知らせします ～教員による4段階評価による肯定率・平均点～

※ 4段階評価【4：よく当てはまる 3：当てはまる 2：今一步 1：当てはまらない】

※ 肯定率：全体に占める4・3の割合 平均点：その段階を点数化して算出

項目	肯定率・平均点
<p>(1)【学習指導】生徒が能動的・対話的に深く学ぶ授業に変え、生徒を『自立した学習者』に育てる。また、家庭学習の指導を通して学習習慣の定着を図り、生徒の自己評価「私は自分で課題を見つけ、進んで勉強するようになった」の肯定率を70.0%以上にする。生徒には「がんばれ！自分。私がやる！」を求める。《継続2年目》(よく考える人)</p> <p>①【重点】①今までの授業実践をベースに「足し算」・「引き算」方式で授業を改善していく。②「教員自らの発問や指示などの働きかけ」を「生徒がどのように反応しているか」を見取り、次への工夫・改善に生かす。③できるだけ1時間の授業を「生徒の自力解決・グループでの協働解決・学級全体の一斉検証」という3つの活動で構成し実践する。</p> <p>②【重点】「5教科の家庭学習」の定着に学年単位で取り組み、学習タイム毎日1時間の生徒の肯定率を高める。①学年の実態や発達段階に応じた取組とする。②4月中に学年の取組方針を生徒に伝え、各教科で継続的に指導する。7月と12月に取組の状況調査を行う。③昨年度の反省を踏まえ、家庭での協力を保護者に依頼する。④昨年度まで活用していた「家庭学習の手引き」を参考にする。 【進路学習部→学年→教科】</p>	<p>62.5%</p> <p>63.1% (生徒の肯定率)</p> <p>①87.5%・3.1</p> <p>②37.5%・2.3</p>
<p>(2)【教育課題研究】「主体的・対話的で深い学びを通した学力の向上」に取り組む年6回の校内研究会(発表会を含む)には、「チーム向陽」として参画意識を高め、グループや全体会での検討・討議に積極的に取り組む。また、自己の授業改善に生かし、新学習指導要領の先行の取組として発表可能な水準を目指す。《継続2年目》(よく考える人)</p> <p>③【重点】教員各自の試行錯誤した意見を出し合い、分類・整理し、合意形成していく過程を大切にする。そして、合意形成したことに全員で取り組む。この繰り返しにより、教員の指導力を伸ばし、「チーム向陽」の集団性を高める。各自がバラバラに工夫するのではなく、同じ方法にこだわる。【教育課題研究推進委員会→教科】</p> <p>④【重点】研究発表会では、「生徒の主体的な姿、対話的な学びの姿、生徒の思考の流れ」を演出する。また、教員の生き生きとした姿を見てもらう。</p> <p>⑤ 全教科でデジタル教科書等のICTを活用する。</p> <p>⑥ 7月に生徒による授業アンケートを実施する。【教育課題研究推進委員会→教</p>	<p>90.6%</p> <p>③87.5%・3.4</p> <p>④87.5%・3.4</p> <p>⑤87.5%・3.4</p> <p>⑥100.0%・3.9</p>

科】

(3)【生徒指導】誰もが安心して学べる向陽中学校にする。生徒の自己評価「私は4月当初に比べ、他人を思いやったり、他人に感謝したりするようになっている」の肯定率を85.0%以上にする。(思いやりのある人)

⑦【重点】①平成31年度実施の「特別の教科 道徳」を“考える・対話する”授業にする。②命の大切さとともに自分を大切にできる心、他人を大切にできる心を育てる。③「特別の教科 道徳」の評価を視野に入れ、毎時間での生徒の見取りやワークシートの記述を集積する。④2月下旬の校内研修会で「特別の教科 道徳」の評価の方向性を確認する。【道徳教育推進教師→学年→学級担任】

⑧【重点】全校を挙げて「いじめのない学校」をつくる。そのために、①生徒同士によりよい人間関係を育む学級経営・学年経営に力を入れる。②全教職員が生徒間のトラブルやいやがらせ等、いじめの芽を早期発見・早期対応を心がける。③毎週開催のいじめ防止校内委員会(企画委員会)で情報の共有及び対応策の検討等を行う。④保護者と「本校いじめ対応基本方針」を共有する。【生活指導部→学年体制→学級担任】

⑨ 生徒会の「いじめ0%5か条」の取組を全校に広げる。特に、生徒が自ら声に出してあいさつができる明るい雰囲気をつくる。【生徒会担当】

(4)【自立的な活動】「がんばれ！自分。私がやる！」を合言葉に、自らの課題に向き合わせ、自力で解決する力を身に付けさせる。生徒の自己評価「私は4月当初に比べ、自分に向き合ったり、自主的に行動したりして、たくましくなっている」の肯定率を85.0%以上にする。(たくましい人)

⑩【重点】毎日の授業を通して生徒を「自立した学習者」に育てる。①1時間の授業を「生徒の自力解決・グループでの協働解決・学級全体の一斉検証」という3つの活動で構成し実践する(再掲)。②年5回の定期考査に自ら計画を立てさせ取り組ませる。家庭学習と関連させ、学年単位で取り組む。【教科・学年体制・学級担任】

⑪【重点】オリンピック・パラリンピック教育を踏まえ、生徒にボランティアマインドを身に付けさせ、生徒一人1回、自らボランティア活動に参加するよう支援する。①自ら捜してボランティア活動を行う。②学校で紹介する地域等でのボランティア活動に参加する。③ボランティア活動を行った生徒名を学年掲示板で知らせる(年間)。【学年】

⑫ 生徒に下記の「自育力を育てる習慣づくり14か条」を意識させ、年3回学期末の自己評価を通して課題の習慣づくりが身に付くよう支援する。【進路学習部】※3か年計画の3年目

- ①規則正しい生活は成功につながる習慣づくり
- ②自分から声に出してあいさつをする習慣づくり
- ③“ありがとう”を毎日言う習慣づくり
- ④感情をコントロールする習慣づくり
- ⑤くよくよせず失敗から立ち直る習慣づくり
- ⑥我慢強く、ねばり強くくり返す習慣づくり
- ⑦小さな目標を達成する習慣づくり
- ⑧自分の役割を楽しむ習慣づくり
- ⑨人のために行動してみる習慣づくり
- ⑩お互いさまの精神で助け合う習慣づくり
- ⑪ちょっとした工夫でやり方を変える習慣づくり
- ⑫活動の範囲を広げ、挑戦する習慣づくり
- ⑬人や書物、作品などから学ぶ習慣づくり
- ⑭「指示待ち」→「自ら行動する」習慣づくり

※担当する学年の生徒全般の達成度を評価する。

68.8%

82.1%

(生徒の肯定率)

⑦81.3%・2.9

⑧50.0%・2.6

⑨75.0%・2.9

81.6%

82.5%

(生徒の肯定率)

⑩87.5%・3.1

⑪81.3%・3.0

⑫68.8%・2.8

⑬81.3%・3.0

⑭81.3%・3.0

⑮81.3%・2.9

⑯81.3%・2.9

⑰87.5%・2.9

⑱75.0%・2.8

⑲87.5%・2.9

⑳93.8%・3.1

㉑93.8%・2.9

㉒100.0%・3.1

㉓93.8%・2.9

㉔75.0%・2.8

㉕100.0%・3.1

㉖75.0%・2.8

⑬ 毎日生活する学級集団のなかで、生徒一人一人が自己の役割を果たしたり、学級全員で学級の課題を解決したりして、自己有用感を持たせ、自力で課題を解決する学級集団に育てる。【学年体制→学級担任】	⑬ 88.9%・3.1
(5)【チーム向陽】教職員一人一人が「みんなの向陽中学校」を自分がつくる意識をもつとともにチームワークを発揮する。	90.0%
⑭ 【重点】「向陽中生を成長させたい、向陽中をよくしたい！」と当事者意識であられる職場にする。そのために、自己の役割と責任を果たすとともに、個人プレーではなく組織プレーの仕事をする（継続）。	⑭ 87.5%・3.1
⑮ 【重点】教職員一人一人が「学年の和」、「分掌の和」、「学校の和」を意識し創る。	⑮ 68.8%・2.8
⑯ 【重点】学校として説明責任を果たす。①4月、教育課程説明会で「評価・評定」を説明する。各学期の「評価・評定」について各教科担当者が生徒に説明する。②学年・学級の方針や生徒の様子は、保護者会や学年だより等で保護者に伝える。③生徒指導等にかかわる保護者への対応は丁寧に行い理解を得る。④学校の方針や考え、生徒の様子等は、保護者会や向陽だより、校長室だより等で説明する。	⑯ 93.8%・3.4
⑰ 食物アレルギー対応には万全を期し、事故「ゼロ」を目指す。また、毎月19日の「食育の日」の朝読書の時間に、栄養士作成の「食育だより」を読み合わせ、生徒に食育を行うとともに、給食の食べ残しを減らすよう呼びかける（再開）。	⑰ 100.0%・3.7
⑱ 教育公務員としての職責を強く自覚し、服務事故「ゼロ」を目指す。	⑱ 100.0%・3.8
(6)【保護者・地域との連携】「地域と共に歩む向陽中学校」を推進する。	78.1%
⑲ 【重点】保護者との連携により「保護者による部活動見守り制度」を立ち上げ、顧問が不在でも部活動ができる、対外試合等の生徒引率ができるようにする。顧問不在時の活動の責任者は校長とする。【各部活動】	⑲ 62.5%・3.1
⑳ 【重点】開校70周年記念で実施した「卒業生による授業」をきっかけに卒業生や地域の人による授業を継続させるために、学校運営協議会、学校支援本部、KSCC(向陽スポーツ文化クラブ)、「cafe 勉」を主催する「ふくふくひろば実行委員会」との連携により生徒の学びをより深める。【進路学習部・学年】	⑳ 93.8%・3.4
(7)【教職員の働き方改革】向陽中学校としてできることから始める。	50.0%
㉑ 部活動は大会前を除き、原則「休養日週2日以上」とする。また、保護者との連携により「保護者による部活動見守り制度」を立ち上げ、顧問が不在でも部活動ができる、対外試合等の生徒引率ができるようにする。顧問不在時の活動の責任者は校長とする。さらに、向陽中学校としての部活動の顧問の在り方を「KSCCとの連携」を視野に検討する。(学校運営協議会)	㉑ 50.0%・2.7
㉒ 「毎週水曜日、18時30分退勤」を推進する。または、「週に一回、18時30分退勤」を推進する。	㉒ 37.5%・2.2
㉓ 見直しができることは年度途中であっても見直しを行う。これまでに「毎朝の企画委員会打合せの廃止、学校運営協議会出席教員の時間短縮、合同研修会への参加人数削減」を図った。	㉓ 62.5%・2.7

※ 上記項目の(1)~(7)の①~③は平成30年度学校経営計画の「重点目標と方策」に示した内容です。この集計結果及び「学校評価アンケート（生徒・保護者・地域対象）結果」（次号の掲載予定）を基に、今年度の学校経営計画の達成状況について分析・考察を行い、1月下旬以降に開催予定の「学校関係者評価委員会」において検討をお願いします。その検討結果を受け、次年度の学校経営及び学校運営の改善を図ります。

※ 本日、無事第2学期を終えることができました。これも地域の皆様並びに保護者の皆様の御支援の賜と深く感謝申し上げます。「学校評価アンケート」に御協力いただきましたことに重ねて感謝申し上げます。第3学期もよろしくお願い申し上げます。

◇ 次世代育成事業「中学生海外留学（第6期）成果報告会」開催 ～12/2(日)～

8月15日(水)から約2週間、オーストラリア・ウィロビー市に留学生として派遣された25名の中学生が、個人学習と3回の事後学習会を経て、12月2日(日)に杉並区立久我山会館にて成果報告会を行いました。本校の内藤円夢さんも4班の班長として発表しました。

内藤さんは、班長として班の見学場所（タロンガZOO・オーストラリア博物館・シドニー水族館・パワーハウス等）について説明した後、個人研究「日本とオーストラリアのスポーツ文化の違い」について発表しました。

「私は今回この事業に参加するにあたって、3つの目標を立てました。1.国際的な考えをもてるようにすること。2.自立すること。3.英語力を向上させること。…学校に行けば、中華系、イギリス系、色々な人がいて、街を歩けば色々な国の料理に出会う。お互い仲たがいすることもなく混じり合い、様々な文化があることが当たり前、違いを認め尊重し合う、それが移民の国オーストラリアでした。…毎日が新鮮で、時に日本の非常識がオーストラリアでは常識だったり、まさにこれが異文化なんだといくことを肌で感じる事ができました。このことは国際的な考えにつながると感じました。…また、ホストファミリーと過ごした日々は、私の自立と英語力につながっていると思います。本当に楽しい時間を作ってくれたホストファミリー、事業を支えてくださった方々に感謝します」。(成果報告書より抜粋)



◇ 次世代育成事業「中学生小笠原自然体験交流(第7期)」の結団式開催される

「中学生小笠原自然体験交流」の結団式が12月3日(月)に区役所にて開催されました。田中良区長から派遣生に激励のご挨拶があり、みな緊張した面持ちで聴き入っていました。今年度は平成31年3月22日(金)～27日(水)の日程で行われます。書類選考と2次面接により30名の派遣生が決定しましたが、本校からは1年生の加藤那埜さんと2年生の清水早沙さんの2名が選ばれました。今後、二人は3回の事前学習会に参加し本番に備えます。本校の代表として環境保全、自然保護活動の推進役となり、小笠原での体験の成果を環境教育に関する諸活動に還元してくれることを期待します。

平成30年度小笠原自然体験交流事業(第7期)
平成31年3月22日(金)～27日(水)



結団式後の記念撮影



左：清水早沙さん(前列左) 右：加藤那埜さん(2列目真ん中)